準初段から六段まで

[解

説〕

新入から1級まで

[解 説〕 千 ◎草書は、動きのある暢達な線をしっかりと習うとよい。 緩急、 ▶教範・書範は右課題を「行書」 太細の線を色々と引いて試すのも一方法です。 は稽 同字変化 で 師範は さ古 「楷書」 で出書して下さい。 それには字を書く前の準備として強弱 れ練

おか 聞 りゅう 野 田 書 ▷用具=自由(黒色に限る) ▷用紙=本会段位用紙

大 じょう城 世清 たに谷 書 ▷用具=自由(黒色に限る)

★将来を…(書体=行書)

アミエル(一〇二~)

スイスの哲学者

将来についてある程度の計画を立て

▷用紙=本会級位用紙

それよりも、

▼3月課題予告(行書

書の道も同じです。

番陽気なものだ

男は我が家から 離れている時が

·教範 • 書範 = 楷書 師範=行草または草書

★千日の… 宮本武蔵(三吾四頃~一六四五 (書体=行草または草書)

の技を自分のものにするためには、 古でその技を練りあげるということで ゆまぬ努力をし続けなければなりませ 千日の稽古で技を修得し、 『五輪書』水之巻に見られることば。 スポーツであれ芸術であれ、 江戸初期の剣客 万日の稽 つ

とすることが未来につながるのです。

▼3月課題予告

青春とは狂気と

燃ゆる熱の 時代である

同字変化をつけて

準初段から六段まで

新入から1級まで

大 春 ります みや宮

▷用具=自由(黒色に限る) ▷用紙=本会段位用紙

遅り

支፥

大 みや宮 春 きょう ▷用具=自由(黒色に限る)

樹々に降り積もった雪が、

▷用紙=本会級位用紙

あろう。

雪解け水で川の水かさも増したことで 音は、一段と高まって聞こえてくる。 が立ち上りその中を流れる千曲川の

Ш

ことである。そのたびにあたりは雪煙 陣の風に吹かれて崩れ落ち、舞い散る

雪散るや千曲の川音立ち来り

▼3月課題予告

雪散るや千曲の川音立ち来り

雁ゆきてまた夕空をしたたらす (藤田湘子)

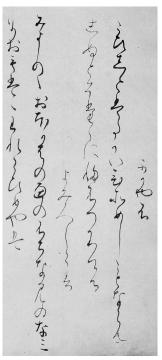
■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

雪散るや千曲の川音立ち来り (臼田亜浪)

締 切り 二月二十三日(必着)

築な 瀬せ

[古筆参考] せきどぼんこきんしゅう 関戸本古今集



におもはざわれこひめやはにおもはざわれこひめやは しぬとぞたゞにいるん こひしとは、

た^多 が^可 いひそめしことないかである。

おほ本 はかはのべのふがない。このないなべかりける

舟り 香さ 書

解説

古里にも、春は訪れたよ。

ついこの間まで白雪の降って

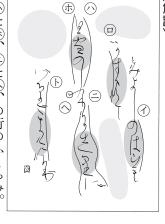
吉野の里はもとより山も霞

(歌意)

(出典)

新古今和歌集

(新潮日本古典集成



金とま (A)と(ま) ①と

三、それぞれ呼応。 (E) L) (\(\sqrt{\sq}\sqrt{\sq}}}}}}}}}\sqit{\sqrt{\sint{\sqrt{\sq}}}}}}}}\signt\signtifith}\signtiftith\signtifta\sintifta}\signtifta\sintitita\sint{\sint{\sinti\sq\sint{\sintii}}}}\signtiftit{\sintiin}}}}\signtiftintiftif{\sintiin}}}\signtiftin 中とま の行のふくらみ。 回と(b) (1) L

方向、それぞれ注意して下さい。 行の中の密。 余白。

関戸本古今集

紀半ば過ぎ、書風は緩急抑揚に富み効向から推して、書かれた年代は十一世る証拠はありません。書風や料紙の趣 果的な墨継ぎ、流麗な連綿、 はないものと云われています。 者は藤原行成と伝えられているが確た 名古屋の素封家関戸家に伝存する。 「古今和歌集」を書写した断簡。 同時代に

▼3月課題予告

参考資料(日本書道辞典

おぼろにみゆる春の夜の月 あさみどり花もひとつに霞みつ、 ふりにし里に春はきにけりみ吉野は山もかすみて白雪のみま野は山もかすみて白雪の 摂政太政大臣

用 実

2月23日(必着) 締切り

これからも健康で笑顔にあふれた 楽しい会話の絶えないお父さんと いつも仲良く旅行や買い物に出か 理想の夫婦でいてくださいね。 お母さんが私の自慢です。どうか

銀婚式おめでとうございます。

好式おめてとういうできます。 公益的绝方方、お父 んが私の自慢です。そう

◎手本は水性ボールペン使用

構 書き 課題

おか聞 じ鳴 は桂 せん **|||** 書

オランダは、国土の3 多 ポルダーと呼ばれる干払地です。 石川県加賀市 1/2

★三行目は、**指定の地名**と氏名を書いて下さい。 ※手本は、つけペン使用。

澤さ

静せい

雨ぅ

書

準初段から師範まで 奥なく 村ら 暢ぶ 之き 臨

[出典] 集字聖教序(672) **〔筆者〕**王羲之法書より集字 **〔読み〕**(凡そ六百五)十七部。中(夏に)訳布し、

「**読み**〕江路野梅 香 し

[大意] 川辺も野も梅の香りで満ち溢れている。

浅さ 井い

機き

山ざん 先 生 書

曇りも果てぬま 大空は梅のには がらハ有め な つ徒 ン、

■両課題とも文字の変換、

準初段から師範まで

ちらし方は自由です。

雨後の日や桃鮮かに水の ^ 國際

〔出典〕中塚一碧楼

[句意] 雨後のあざやかな桃の花が小川のむこう岸に咲いている。あざ やかさが一句の主眼。のどかな田園の一情景である。

[出典] 藤原定家

(歌意) 大空は、立ちのぼる梅の芳香で霞み霞みして、霞みきってしまっ たほどでもない、春の夜の月よ。

締切り

二月二十三日

(必着)

咲いているのだろうか。 どこに春の便りの梅が はほの暗い。いったい 降りるころの月明かり 一面を覆っていて霜の

初出品の方へ

を、作品左下に必ず姓名・毛筆漢字成績支部名・会員番号・

お書き下さい。

半紙 (3 3 4 mm× 2 4 0 mm)

だ 田 れい と随 か華 書

しない美しい線が出て……筆が書いてくれるんだ確と守りながら書いてみました。伸びやかで予期確と守りながら書いてみました。伸びやかで予期強張らせずして書く、即ち書きながら手を解して強張らせずして書く、即ち書きながら手を解して強張らせずして書く、即ち書きながら手を解して と言えるようになる為に。

厳しい寒さが続きますが元気ですか 幼少時から人一倍寒がりのお前が

引かなければと案じています 新潟で初めての冬を迎えて風邪を

(ご自分の氏名)

印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

新入から師範まで、どなたでも出書できます。

成績 (天位~5等)は、 評価により毎月変わり

ます。

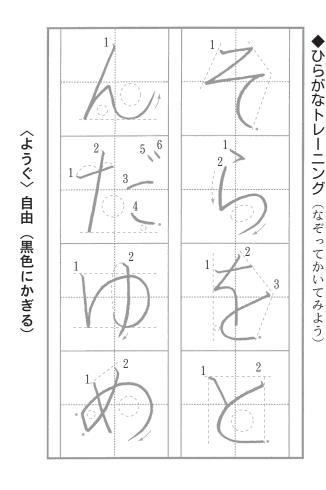
書体変換、変体仮名の交換は自由です。

-7 -

ょ

う

年



★幼年は、 ★新入は、 全員8マス用紙で出書して下さい。 年少・年中・年長の別を記入して下さい。

(注) えんぴつ書きでは、 消しゴムを使ってはいけません

あか

				١.
注	を	11	き	小一年
えんパつ書き	H	赤	7	
では、肖ノゴ	7	()),	
(主) えいパロ書きでは、肖レゴハと吏っては、ナませい。	#	, C	先	
ナません。	す	<	生	準初段以上

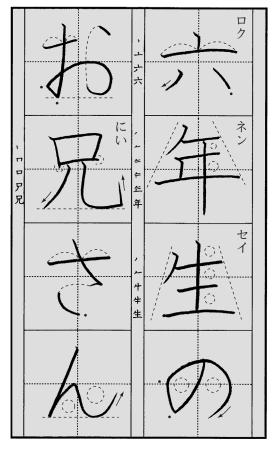
幼年~小三年まで

宅は 容さ 玉紫 書

新入~1

級

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)



[読み] お兄さん=単語としてこのように読みます。

新入~1級



準初段以上

小

年

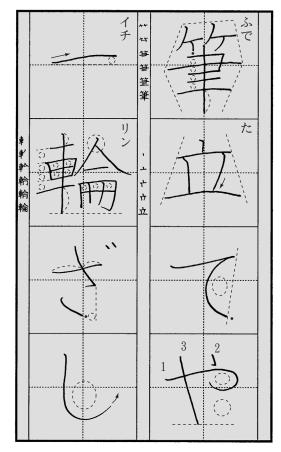


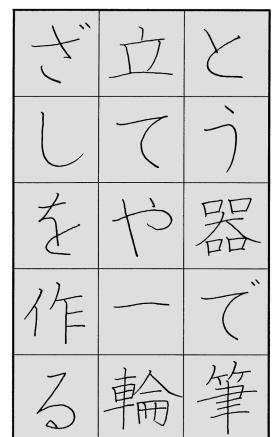
新入~1級

4	を	炭	小三年
魚	使	2	
2	\	金	
7	大	あ	
<	き	4	準初段以上

(注)えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈用具〉自由(黒色に限る)



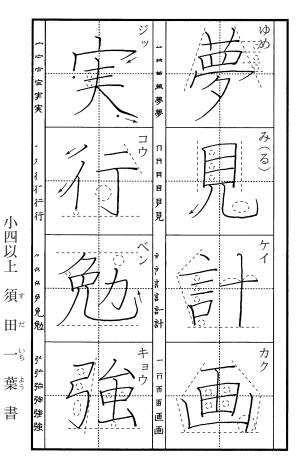


準初段以上

小

匹

年



(よく見て習いましょう)

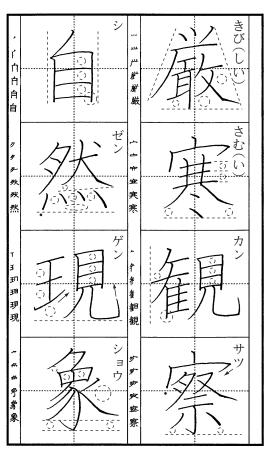
五 年

小

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。





解 説(よく見て習いましょう)

る自然察は

(全員)

中

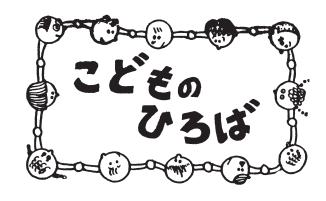
小

六

年

中二・三年 (行書)

阳开		#
発	標	界
2	/ 1	X
7	制	净
3	12 12 12	5



しめきり 2月23日(必着)

習っていない漢字は、 ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 下 條 春 桑 書

◇作品の出し方

- 選定用紙(五行・四行)に書いて下さい。
- 下さい。
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、一、筆記用具は自由です。(黒色に限る)
- 成績は評価により毎月変わります。を適当に短くして下さい。

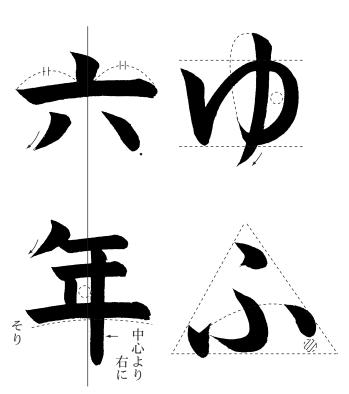
ていない方は新入とみなします。支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っ

◎お手本はえんぴつ使用

◎お手本はつけペン使用









关訊行動





三~小五年 水野

か野香竹書

小六~中二・三年 奥村 暢ぶ

之^ゅき 書

対多人多

規自然然

